日蓮正宗総本山

大石寺

Nichiren Shoshu Head Temple Taisekiji

大石寺縁起

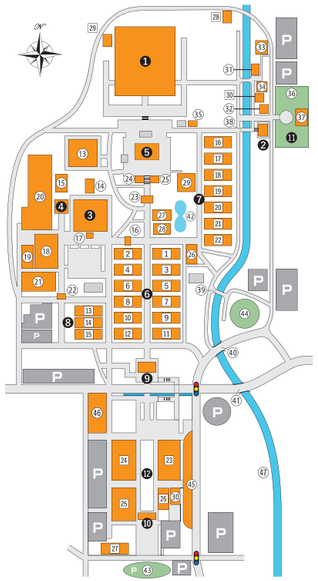
当山は多宝富士大日蓮華山大石寺と称し、正応三年（一二九〇）十月十二日、宗祖日蓮大聖人の法嫡第二祖白蓮阿闍梨日興上人によって開創された。寺号の大石寺は、地名の大石ヶ原に由来する。また、開基檀那は当富士上野郷の地頭・南条七郎次郎平時光である。

日興上人は、弘安五年（一二八二）に大聖人から一切の御付嘱を受け、大聖人御入滅の後は身延山久遠寺の別当職に就かれた。しかし、その後数年にして、地頭の波木井実長が民部阿闍梨日向にそそのかされ数々の謗法をおかすに至り、師の日興上人の再三の諫止にも拘わらず改めることがなかった。

ために日興上人は、大聖人の「地頭の不法ならん時は我も住むまじ」との御遺言、また「国主此の法を立てらるれば富士山に本門寺の戒壇を建立せらるべきなり」との御遺命により、遂に意を決せられて、宗旨の根本たる本門戒壇の大御本尊をはじめ、大聖人の御灰骨・御書・御遺物等一切の重宝を捧持し、正応二年の春、身延の山を離れ、大聖人御在世当時からの強信者であった南条時光の請によって富士に移られた。

翌正応三年、大石寺を建立して大御本尊を安置し奉り、多くの御弟子方を養成されて、ここに万代にわたる仏法流布の基礎を築かれたのである。

大石寺境内案内図



❶ 奉安堂
❷ 五重塔
❸ 客殿
❹ 六壺
❺ 御影堂
❻ 中央塔中
❼ 東塔中
❽ 西塔中
❾ 三門
❿ 総門
⓫ 大石寺墓地
⓬ 広布の広場

⑬ 法堂
⑭ 御宝蔵
⑮ 大書院
⑯ 鬼門
⑰ 不開門
⑱ 大講堂
⑲ 中講堂
⑳ 大坊（内事部）
㉑ 宗務院
㉒ 裏門
㉓ 二天門
㉔ 鼓楼
㉕ 鐘楼
㉖ 富士見庵
㉗ 蓮蔵坊
㉘ 多宝蔵
㉙ 蓮葉庵
㉚ 登山事務所
㉛ 御経蔵
㉜ 十二角堂
㉝ 宝物殿
㉞ 大納骨堂
㉟ 六万塔
㊱ 三師塔・歴代上人墓地
㊲ 典礼院（墓地事務所）
㊳ 御塔橋
㊴ 富士見橋
㊵ 大石橋
㊶ 龍門橋
㊷ 法祥園
㊸ 常灯ヶ峰
㊹ 塔の原グラウンド
㊺ 第１ターミナル
㊻ 第２ターミナル（バス・タクシー）
㊼ 潤井川

1 浄蓮坊
2 理境坊
3 久成坊
4 百貫坊
5 蓮東坊
6 叙日坊
7 本住坊
8 観行坊
9 本境坊
10 蓮成坊
11 了性坊
12 南之坊
13 妙泉坊
14 妙住坊
15 遠寿坊
16 妙遠坊
17 報恩坊
18 遠信坊
19 東之坊
20 本種坊
21 石之坊（常唱堂）
22 雪山坊
23 総一坊
24 総二坊
25 広布坊
26 常来坊
27 常灯坊
28 妙護坊
29 法護坊
30 常楽坊

日蓮正宗総本山 大石寺
〒418-0116 静岡県富士宮市上条2057番地
TEL. 0544-58-0810

日蓮正宗HP
QRコード

奉安堂

Hoando

奉安堂は、六十七世日顕上人の発願により、宗旨建立七百五十年を慶祝する記念事業として建立された、本門戒壇の大御本尊御安置の堂宇である。

平成十二年四月に着工法要を奉修し、同十四年十月に落成した。

堂宇の外観は伝統的な日本の寺院建築様式で、寄棟造り二層屋根、地上一階、地下一階の鉄骨造り、間口七五メートル、奥行一一六メートル、高さ五五メートルとなっている。

堂内は、間口五五メートル、奥行八四メートルあり、信徒席には五千名分の椅子席が設けられている。また、大御本尊御安置の須弥壇は、全体が特殊合金でできた金庫室になっており、耐震・耐火・防犯の面でも、極めて高い安全性が確保されている。

奉安堂は、ここに集う日蓮正宗僧俗が、常に広宣流布と自らの罪障消滅、さらには日々の精進を誓う、崇高なる霊場である。

（表紙の写真）

三門 *Sanmon*

正徳二年（一七一二）、二十五世日宥上人の発願により、徳川六代将軍・家宣公が富士山の巨木七十本、同御台所・天英院が黄金一二〇〇粒を寄進し、五年の歳月をかけて享保二年（一七一七）八月に完成した。

その後、数度の改修が施され、六十八世日如上人によって、平成二十七年から解体大改修工事が行われ、令和三年一月、大改修完成奉告法要が奉修された。

間口二四メートル、奥行一一メートル、高さ一二メートル、木造の朱塗りで、その規模において東海随一である。

三門は静岡県の有形文化財に指定されている。

五重塔 *Gojyu-no-to*

境内を流れる潤井川の東側、木立に囲まれた高台に建つのが、東海道沿線随一とされる五重宝塔である。

二十六世日寛上人が、徳川六代将軍の御台所・天英院と共に起塔の志を立てて基金を遺し、その後五代の法主上人が素志を継ぎ、三十一世日因上人が諸国を勧化して得た浄財と備中松山藩主・板倉勝澄公の寄進によって寛延二年（一七四九）完成した。

六十八世日如上人によって、平成二十七年から修復工事が行われ、同二十九年一月、修復完成法要が奉修された。

三間半（六・四メートル）四面で、高さ三四・三メートル。

五重塔は国の重要文化財に指定されている。

塔中 *Tatchu*

三門を通り、歩を進めると、幅広い石畳の参道に至る。この両側に建ち並ぶ十二ヶ坊が中央塔中である。春には参道を覆うように枝垂れ桜が咲き誇り、参拝者の心をなごませてくれる。

なお、大石寺境内には中央塔中のほか、東塔中として七ヶ坊、西塔中として三ヶ坊があり、いずれも参詣信徒の休憩坊となっている。

御影堂 *Miei-do*

正応三年（一二九〇）、御開山二祖日興上人によって創建され、嘉慶二年（一三八八）、六世日時上人の代、越前法橋快恵の謹作により造立された日蓮大聖人等身の御影が安置されている。

現在の建物は、寛永九年（一六三二）、阿波徳島の初代藩主・蜂須賀至鎮公夫人・敬台院の寄進によって再建されたもので、元禄十二年、明治三十五年、昭和四十六年、平成二年・同十四年に、それぞれ改修や修理が施された。

さらに平成十九年から解体大改修工事が行われ、同二十五年十一月、大改修落慶大法要が奉修された。

間口二五メートル、奥行・高さ二三メートル。

御影堂は静岡県の有形文化財に指定されている。

六壺 *Mutsubo*

正応三年（一二九〇）、御開山二祖日興上人の創建で、大石寺発祥の霊域である。

現在の建物は、昭和六十三年十月、大石寺開創七百年の記念事業として建立された。

十間四面の平屋建て、総けやき造り、内部は一七〇畳の広さとなっている。

客殿 *Kyakuden*

寛正六年（一四六五）、九世日有上人が創建され、享保八年、明治四年、昭和二十三年、同三十九年に、それぞれ再建された。

現在の建物は、平成十年三月に新築されたものである。内部の基本構造は耐震性にすぐれた鉄骨造りで、外装や堂内の仕上げには全て木材を使用した伝統的和風建築である。

間口・奥行とも約五〇メートル、高さ三六メートルの二階建てで、堂内は一一一二畳敷きの大広間となっている。

客殿は、総本山の中で最も多くの法要が奉修される建物で、ことに日蓮大聖人の法脈を受け継がれた歴代法主上人が毎朝、広宣流布祈念の丑寅勤行を修される重要な堂宇である。

法祥園 *Hoshoen*

平成二年春、大石寺開創七百年記念事業の一環として、蓮葉庵の南側に造成された一六〇〇坪余の広大な庭園である。晴れた日には、中央の明鏡池に富士山が鮮やかに映る。